

HILTI

TE 30
TE 30-AVR
TE 30-C-AVR
TE 30-M-AVR

日本語



1 文書について

1.1 本書について

- ご使用前に本書をすべてお読みください。このことは、安全な作業と問題のない取扱いのための前提条件となります。
- 本書および製品に記載されている安全上の注意と警告表示に注意してください。
- 取扱説明書は常に製品とともに保管し、他の人が使用する場合には、製品と取扱説明書を一緒にお渡しください。

1.2 記号の説明

1.2.1 警告表示

警告表示は製品の取扱いにおける危険について警告するものです。記号と組み合わせで以下の注意喚起語が使用されています：



危険！ この表記は、重傷あるいは死亡事故につながる危険性がある場合に注意を促すために使われます。



警告事項！ この表記は、重傷あるいは死亡事故につながる可能性がある場合に注意を促すために使われます。



注意！ この表記は、軽傷あるいは物財の損傷が発生する可能性がある場合に使われます。

1.2.2 本書の記号

本書では、以下の記号が使用されています：



使用前に取扱説明書をお読みください



本製品を効率良く取り扱うための注意事項や役に立つ情報

1.2.3 図中の記号

図中では以下の記号が使用されています：



この数字は本取扱説明書冒頭にある該当図を示しています

3

付番は図中の作業手順の順序に対応していて、本文の作業手順とは一致しない場合があります



概要図には項目番号が付されていて、製品概要セクションの凡例の番号に対応しています



この記号は、製品の取扱いの際に特に注意が必要なことを示しています。

1.3 製品により異なる記号

1.3.1 製品に表示されている記号

製品には以下の記号が使用されています：



回転のみ

1



回転のみ (1 速)

2



回転のみ (2 速)



回転 + 打撃 (打撃穿孔)



ハツリ作業



チゼル角度調整



電気絶縁保護クラス II (二重絶縁)



直径

n ₀	無負荷回転数
/min	毎分回転数
RPM	毎分回転数

1.4 製品情報

Hilti の製品はプロ仕様で製作されており、本体の使用、保守、修理を行うのは、認定を受けトレーニングされた人のみに限ります。これらの人は、遭遇し得る危険に関する情報を入手していなければなりません。製品およびアクセサリーの使用法を知らない者による誤使用、あるいは規定外の使用は危険です。

機種名および製造番号は銘板に表示されています。

- ▶ 製造番号を以下の表に書き写しておいてください。ヒルティ代理店やサービスセンターへお問い合わせの際には、製品データが必要になります。

製品データ

コンビハンマードリル	TE 30 TE 30-AVR TE 30-C-AVR TE 30-M-AVR
製品世代	01
製造番号	

1.5 適合宣言

当社は、単独の責任において本書で説明している製品が有効な基準と標準規格に適合していることを宣言します。適合宣言書の複写は本書の末尾にあります。

技術資料は本書の後続の頁に記載されています：

Hilti Entwicklungsgesellschaft mbH | Zulassung Geräte | Hiltistraße 6 | 86916 Kaufering, DE

2 安全

2.1 電動工具の一般安全注意事項

⚠ 警告事項 本電動工具に付属のすべての安全上の注意、指示事項、図、および製品仕様をお読みください。以下の指示を守らないと、感電、火災および / または重傷事故の危険があります。

安全上の注意および指示事項が書かれた説明書はすべて大切に保管してください。

安全上の注意で使用する用語「電動工具」とは、お手持ちの電動ツール（電源コード使用）またはバッテリーツール（コードレス）を指します。

作業環境に関する安全

- ▶ 作業場はきれいに保ち、十分に明るくしてください。ちらかった暗い場所での作業は事故の原因となります。
- ▶ 爆発の危険性のある環境（可燃性液体、ガスおよび粉じんのある場所）では電動工具を使用しないでください。電動工具から火花が飛散し、粉じんや揮発性ガスに引火する恐れがあります。
- ▶ 電動工具の使用時、子供や無関係者を作業場へ近づけないでください。作業中に気がそらされると、本体のコントロールを失ってしまう恐れがあります。

電気に関する安全注意事項

- ▶ 電動工具の接続プラグは電源コンセントにきちんと適合しなければなりません。プラグは絶対に変更しないでください。保護接地した電動工具と一緒にアダプタープラグを使用しないでください。オリジナルのプラグと適切なコンセントを使用することにより、感電の危険を小さくすることができます。
- ▶ パイプ、ラジエーター、電子レンジ、冷蔵庫などのアースされた面に体の一部が触れないようにしてください。体が触れると感電の危険が大きくなります。
- ▶ 電動工具を雨や湿気から保護してください。電動工具に水が浸入すると、感電の危険が大きくなります。
- ▶ 電動工具を持ち運んだり、吊り下げたり、コンセントからプラグを抜いたりするときは、必ず本体を持ち、電源コードを持ったり引っ張ったりしないでください。電源コードを火気、オイル、鋭利な刃物、可動部等に触れる場所に置かないでください。電源コードが損傷したり絡まったりしていると、感電の危険が大きくなります。
- ▶ 屋外工事の場合には、必ず屋外専用の延長コードを使用してください。屋外専用の延長コードを使用すると、感電の危険が小さくなります。
- ▶ 湿った場所で電動工具を動作させる必要がある場合は、漏電遮断器を使用してください。漏電遮断器を使用すると、感電の危険が小さくなります。

作業者に関する安全

- ▶ 電動工具を使用の際には、油断せずに十分注意し、常識をもった作業をおこなってください。疲れている場合、薬物、医薬品服用およびアルコール飲用による影響下にある場合には電動工具を使用しないでください。電動工具使用中の一瞬の不注意が重傷の原因となることがあります。
- ▶ 個人用保護具および保護メガネを常に着用してください。負傷の危険を低減するために、電動工具の使用状況に応じた粉じんマスク、耐滑性の安全靴、ヘルメット、耳栓などの個人用保護具を着用してください。
- ▶ 電動工具の意図しない始動を防止して下さい。電動工具を電源および / またはバッテリーに接続する前や本体を持ち上げたり運んだりする前に、本体がオフになっていることを必ず確認してください。オン / オフスイッチが入っている状態で電動工具のスイッチに指を掛けたまま運んだり、電源に接続したりすると、事故の原因となる恐れがあります。
- ▶ 電動工具のスイッチを入れる前に、必ず調節キーやレンチを取り外してください。調節キーやレンチが本体の回転部に装着されたままでは、けがの原因となる恐れがあります。
- ▶ 作業中是不安定な姿勢をとらないでください。足元を安定させ、常にバランスを保つようにしてください。これにより、万一電動工具が異常状況に陥った場合にも、適切な対応が可能となります。
- ▶ 作業に適した作業着を着用してください。だぶだぶの衣服や装身具を着用しないでください。髪、衣服、手袋を本体の可動部に近づけないでください。だぶだぶの衣服、装身具、長い髪が可動部に巻き込まれる恐れがあります。
- ▶ 吸じんシステムの接続が可能な場合には、これらのシステムが適切に接続、使用されていることを確認してください。吸じんシステムを利用することにより、粉じん公害を防げます。
- ▶ 電動工具の取扱いに熟練している場合にも、正しい安全対策を遵守し、電動工具に関する安全規則を無視しないでください。不注意な取扱いは、ほんの一瞬で重傷事故を招くことがあります。

電動工具の使用および取扱い

- ▶ 無理のある使用を避けてください。作業用途に適した電動工具を使用してください。適切な電動工具の使用により、能率よく、スムーズかつ安全な作業が行えます。
- ▶ スwitchが故障している場合には、電動工具を使用しないでください。スイッチで始動および停止操作のできない電動工具は危険ですので、修理が必要です。
- ▶ 本体の設定やアクセサリの交換を行う前や本体を保管する前には電源プラグをコンセントから抜き、および / または脱着式のバッテリーを取り外してください。この安全処置により、電動工具の意図しない始動を防止することができます。
- ▶ 電動工具をご使用にならない場合には、子供の手の届かない場所に保管してください。電動工具に関する知識のない方、本説明書をお読みでない方による本体のご使用は避けてください。未経験者による電動工具の使用は危険です。
- ▶ 電動工具とアクセサリは慎重に手入れしてください。可動部分が引っ掛かりなく正常に作動しているか、電動工具の運転に影響を及ぼす各部分が破損・損傷していないかを確認してください。電動工具をご使用になる前に、損傷部分の修理を依頼してください。事故の多くは保守管理の不十分な電動工具の使用が原因となっています。
- ▶ 先端工具は鋭利で汚れのない状態を保ってください。お手入れのゆきとどいた先端工具を使用すると、作業が簡単かつ、スムーズになります。
- ▶ 電動工具、アクセサリ、先端工具などは、それらの説明書に記載されている指示に従って使用してください。その際は、作業環境および用途についてもご注意ください。指定された用途以外に電動工具を使用すると危険な状況をまねく恐れがあります。
- ▶ グリップとグリップ面は乾燥した清潔な状態に保ち、オイルやグリスの付着がないようにしてください。グリップやグリップ面が滑りやすい状態になっていると、予期していない状況が発生した際に電動工具を安全に使用 / 制御できません。

サービス

- ▶ 電動工具の修理は必ず認定サービスセンターにお申し付けください。また、必ず純正部品を使用してください。これにより電動工具の安全性が確実に維持されます。

2.2 ドリルに関する安全上の注意

すべての作業に関する安全上の注意

- ▶ 打撃 + 回転の際は耳栓を着用してください。騒音により、聴覚に悪影響が出る恐れがあります。
- ▶ 補助グリップを使用してください。コントロールを失うと負傷の危険があります。
- ▶ ご使用になる前に電動工具を確実に支持してください。この電動工具は高いトルクを発生します。運転中に電動工具が確実に支持されていないと、コントロールを失って負傷する危険があります。
- ▶ 隠れた電線や装置自体の電源コードに先端工具あるいはねじが接触する可能性のある作業を行う場合は、電動工具の絶縁されたグリップを持ってください。通電しているケーブルと接触すると、本体の金属部分にも電圧がかかり、感電の危険があります。

長いドリルビットを使用する際の安全上の注意

- ▶ 決してドリルビットの最大許容回転数を超過する回転数で作業しないでください。回転数が高くてドリルビットが作業材料と接触せず自由に回転できる状態にあると、ドリルビットは簡単に曲がってしまうことがあり、これが負傷の原因となることがあります。
- ▶ 穿孔作業は、常にドリルビットが作業材料と接触している状態で低い回転数から始めるようにしてください。回転数が高くてドリルビットが作業材料と接触せず自由に回転できる状態にあると、ドリルビットは簡単に曲がってしまうことがあり、これが負傷の原因となることがあります。
- ▶ 過度な力を加えず、常にドリルビットの縦方向にのみ力が作用するようにしてください。ドリルビットは曲がって折れてしまうこと、あるいはコントロールを失って負傷の原因となることがあります。

攪拌バスケットおよび攪拌ブランチャーを使用する際の安全上の注意

- ▶ 電動工具のオン/オフは、必ず攪拌バスケットが攪拌する物質内にある状態で行ってください。そうしないと、コントロールを失って負傷する危険があります。

2.3 その他の安全上の注意

作業者に関する安全

- ▶ 本体は、必ず技術的に問題のない状態で使用してください。
- ▶ 本体は決して加工や改造を加えないでください。
- ▶ サイドハンドルが正しく取り付けられ、しっかりと固定されていることを確認してください。
- ▶ 本体とグリップを常に両手でしっかりと保持してください。グリップ表面は乾燥させ、清潔に保ち、オイルやグリスで汚さないようにしてください。
- ▶ 休憩を取って緊張をほぐし、指を動かして血行を良くするように心がけてください。
- ▶ 回転部分には手を触れないでください。本体の電源は必ず作業場で入れてください。回転部分、特に回転している先端工具は負傷の原因となります。
- ▶ 本体は、体の弱い人が指示を受けずに使用するには向いていません。
- ▶ 電動工具の使用で、子供や無関係者を作業場へ近づけないでください。
- ▶ 含鉛塗料、特定の種類の木材、コンクリート/石材、石英を含む岩石、鉱物および金属などの母材から生じた粉じんは、健康を害する恐れがあります。作業者や近くにいる人が粉じんに触れたり吸い込んだりすると、アレルギー反応や呼吸器疾患を起こす可能性があります。カシヤブナ材などの特定の粉じんは、特に木材処理用の添加剤（クロム塩酸、木材保護剤）が使用されている場合、発ガン性があるとされています。アスベストが含まれる母材は、必ず専門家が取り扱うようにしてください。できるだけ集じん装置を使用してください。集じん効率を高めるには、適切な可動集じん装置を使用してください。必要に応じてそれぞれの粉じんに適した防じんマスクを着用してください。作業場の換気に十分配慮してください。処理する母材について、各国で効力を持つ規定を遵守してください。
- ▶ 作業開始前に、作業場で発生する粉じんの危険有害度を調査してください。公的に承認された保護等級および地域の粉じんに関する規定を満たした工業用集じん機を使用してください。
- ▶ 各国の労働安全衛生法に従ってください。

電気に関する安全注意事項

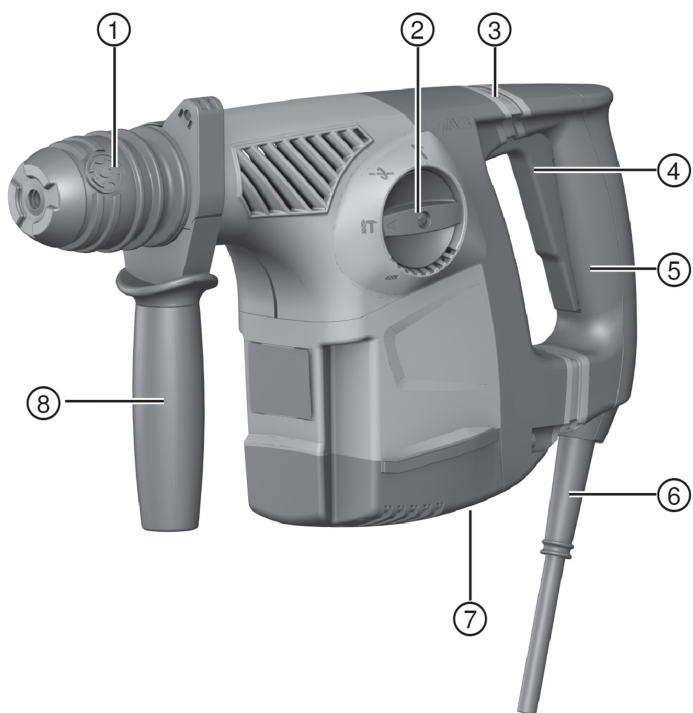
- ▶ 作業を開始する前に、作業領域に埋設された電線、ガス管や水道管がないかを調査してください。誤って電線を損傷すると、本体外側の金属部分により感電事故が発生する可能性があります。
- ▶ 本体の電源コードを定期的に点検し、コードに損傷がある場合は認定を受けた修理スペシャリストに交換を依頼してください。電動工具の電源コードが損傷した場合は、専用の承認された交換用電源コードと交換してください。交換用電源コードはヒルティサービスセンターにご注文ください。延長コードを定期的に点検し、損傷がある場合は交換してください。作業中、損傷した電源コード、延長コードには触れないでください。電源プラグをコンセントから抜きます。損傷した電源コードや延長コードは感電の原因となり危険です。
- ▶ 停電の際は電動工具をオフにし、給電が再開された際に意図せず始動することのないように電源プラグを抜いてください。
- ▶ 導電性のある母材に対する作業を頻繁に行う場合は、定期的にHilti サービスセンターに本体の点検を依頼してください。本体表面に汚れ（特に導電性の物質）が付着していたり、あるいは濡れていると、場合によっては感電の恐れがあります。

電動工具の慎重な取扱いおよび使用

- ▶ 作業材料を固定します。作業材料は、手だけで固定するよりクランプまたは万力を使用したほうがより確実に固定されます。
- ▶ 先端工具がブロックしたら直ちに電動工具をオフにします。本体は側方へとずらすことができます。
- ▶ 電動工具は停止するまで置かないでください。
- ▶ 先端工具がチャック機構に適合し、チャック内にしっかりと固定されていることを確認してください。
- ▶ 先端工具は使用することで熱くなるので、先端工具の交換時には保護手袋を着用してください。

作業場の安全確保

- ▶ 剥がし作業の場合には、作業側と反対の領域を保護してください。剥がれた部分が脱落、落下して他の人を負傷させる危険があります。



- | | |
|------------------------------------|---------------------|
| ① チャック | ⑤ グリップ |
| ② 機能切り替えスイッチ | ⑥ 電源コード |
| ③ Active Vibration Reduction (AVR) | ⑦ 正回転 / 逆回転切り替えスイッチ |
| ④ 無段変速スイッチ | ⑧ デプスゲージ付きサイドハンドル |

3.2 正しい使用

本書で説明している製品は、電動コンビハンマードリルです。本製品は、コンクリート、石材、木材および金属への穿孔作業用の工具です。さらに、本製品は石材への軽度～中程度のハツリ作業、およびコンクリートへの再加工作業に使用できます。

本製品は、一定条件を満たしていれば攪拌にも適しています。

▶ 必ず銘板に表示されている電圧、周波数で使用してください。

3.3 本体に関する説明

3.3.1 Active Vibration Reduction

本製品は、振動を大幅に低減させるActive Vibration Reduction (AVR) システムを装備しています。

3.4 本体標準セット構成

ロータリーハンマードリル、サイドハンドル、デプスゲージ、取扱説明書。

その他の本製品用に許可されたシステム製品については、弊社営業担当または **Hilti Store** にお問い合わせいただくか、あるいは www.hilti.group | USA: www.hilti.com でご確認ください。

4 製品仕様



注意事項

定格電圧、定格電流、周波数および / または定格電力については、国別の銘板でご確認ください。

発電機または変圧器を使用する場合は、それらは本体の銘板に記載されている定格電力より 2 倍以上大きな出力がなければなりません。変圧器または発電機の作動電圧は、常に本体の定格電圧の +5 %...-15 % の範囲になければなりません。

	TE 30	TE 30-AVR
重量 (EPTA プロシージャ 01 準拠)	4.0 kg	4.2 kg
Ø ハンマードリルビット	5 mm ... 28 mm	5 mm ... 28 mm
Ø 木工用ドリルビット	5 mm ... 20 mm	5 mm ... 20 mm
Ø 鉄工用ドリルビット	3 mm ... 13 mm	3 mm ... 13 mm
Ø シャンク形状が円の攪拌ツール (不燃性物質の攪拌用)	•/•	•/•

	TE 30-C-AVR	TE 30-M-AVR
重量 (EPTA プロシージャ 01 準拠)	4.2 kg	4.4 kg
Ø ハンマードリルビット	5 mm ... 28 mm	5 mm ... 28 mm
Ø 木工用ドリルビット	5 mm ... 20 mm	5 mm ... 20 mm
Ø 鉄工用ドリルビット	3 mm ... 13 mm	3 mm ... 13 mm
Ø シャンク形状が円の攪拌ツール (不燃性物質の攪拌用)	•/•	80 mm ... 150 mm

4.1 騒音および振動値について (EN 60745 準拠)

本説明書に記載されているサウンドプレッシャー値および振動値は、規格に準拠した測定方法に基づいて測定したものです。電動工具を比較するのにご使用いただけます。曝露値の暫定的な予測にも適しています。記載されているデータは、電動工具の主要な使用方法に対する値です。電動工具を他の用途で使用したり、異なる先端工具を取り付けて使用したり、手入れや保守が十分でないまま使用した場合には、データが異なることがあります。このような相違により、作業時間全体で曝露値が著しく高くなる可能性があります。曝露値を正確に予測するためには、本体のスイッチをオフにしている時間や、本体が動作していても実際には使用していない時間も考慮しなければなりません。このような相違により、作業時間全体で曝露値が著しく低くなる可能性があります。作業者を騒音および / または振動による影響から保護するために、他にも安全対策を立ててください (例：電動工具およびの先端工具の手入れや保守、手を冷やさぬようにする、作業手順の計画を立てる)。

騒音排出値

	TE 30	TE 30-AVR
サウンドパワーレベル (L_{WA})	101 dB(A)	101 dB(A)
サウンドパワーレベルの不確か性 (K_{WA})	3 dB(A)	3 dB(A)
サウンドプレッシャーレベル (L_{pA})	90 dB(A)	90 dB(A)
サウンドプレッシャーレベルの不確か性 (K_{pA})	3 dB(A)	3 dB(A)

	TE 30-C-AVR	TE 30-M-AVR
サウンドパワーレベル (L_{WA})	101 dB(A)	101 dB(A)
サウンドパワーレベルの不確か性 (K_{WA})	3 dB(A)	3 dB(A)
サウンドプレッシャーレベル (L_{pA})	90 dB(A)	90 dB(A)
サウンドプレッシャーレベルの不確か性 (K_{pA})	3 dB(A)	3 dB(A)

合計振動値

	TE 30	TE 30-AVR
コンクリートへの打撃穿孔 ($a_{h, HD}$)	16.5 m/s ²	12 m/s ²
ハツリ作業 ($a_{h, Cheq}$)	•/•	•/•
不確か性 (K)	1.5 m/s ²	1.5 m/s ²

	TE 30-C-AVR	TE 30-M-AVR
コンクリートへの打撃穿孔 ($a_{h, HD}$)	12 m/s ²	12 m/s ²
ハツリ作業 ($a_{h, Cheq}$)	11 m/s ²	11 m/s ²
不確か性 (K)	1.5 m/s ²	1.5 m/s ²

5 ご使用方法

5.1 作業準備



注意

負傷の危険！ 製品は意図せず作動することがあります。

- ▶ 本体の設定やアクセサリーの交換を行う前に電源プラグを抜いてください。

本書および製品に記載されている安全上の注意と警告表示に注意してください。

5.1.1 サイドハンドルを取り付ける



注意

負傷の危険！ 取り付けられているが使用してはならないデブスゲージにより作業員の作業が妨げられます。

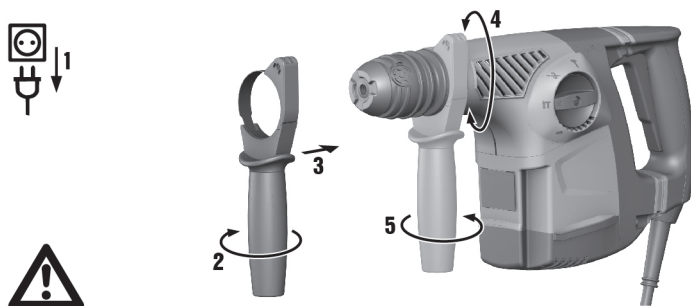
- ▶ 本製品からデブスゲージを取り外します。



注意

負傷の危険 コンビハンマードリルのコントロールの喪失。

- ▶ サイドハンドルが正しく取り付けられ、しっかりと固定されていることを確認してください。クランピングバンドが本体の専用の溝にはまっていることを確認してください。

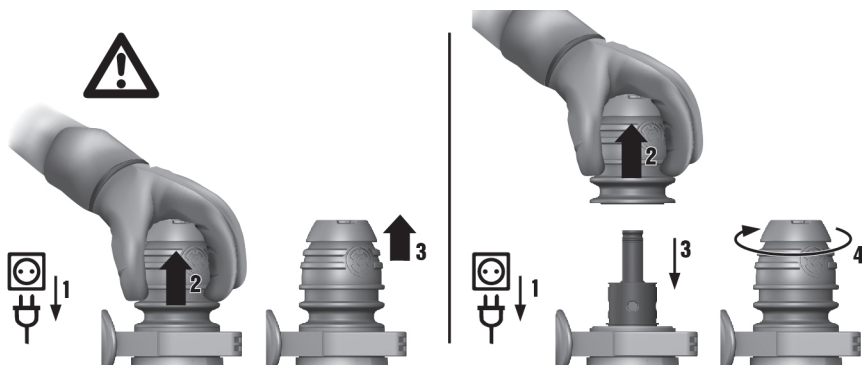


- ▶ サイドハンドルを取り付けます。

5.1.2 チャックを取り付ける / 取り外す

- 注意**
 負傷の危険！ 取り付けられているが使用してはならないデブスゲージにより作業者の作業が妨げられます。
- ▶ 本製品からデブスゲージを取り外します。

- 注意事項**
 チャックを交換する際は、機能切り替えスイッチを「ハツリ作業」**T**の位置にしてください。



- ▶ チャックを取り付け / 取り外します。

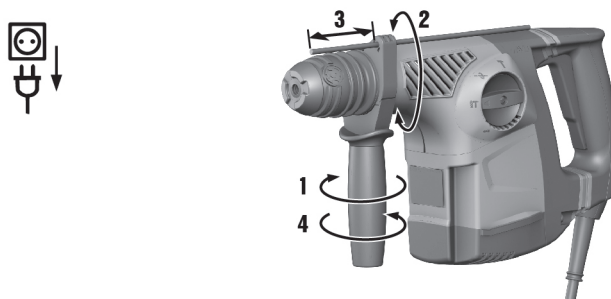
5.1.3 先端工具を装着 / 取り外す

- 注意事項**
 適切でないグリスを使用すると、製品の損傷の原因となることがあります。必ずHiltiの純正グリスを使用してください。



▶ 先端工具を装着 / 取り外します。

5.1.4 デブスゲージを調整する



▶ デブスゲージを調整します。

5.2 作業



警告

感電による危険！ アース線および漏電遮断器がないと、重傷事故および火傷の危険があります。

- ▶ 工事現場の電気供給配線には、電源からのものであるか発電機からのものであるかを問わず、必ずアース線と漏電遮断器が備わっていて、それらが接続されていることを確認してください。
- ▶ これらの安全対策を施さずに製品を 작동させないでください。



警告

損傷したコードによる危険！ 作業中に電源コードまたは延長コードを損傷した場合は、コードに触れないでください。不意に始動しないように電源プラグをコンセントから抜きます。

- ▶ 本体の電源コードを定期的に点検し、コードに損傷がある場合は認定を受けた修理スペシャリストに交換させてください。

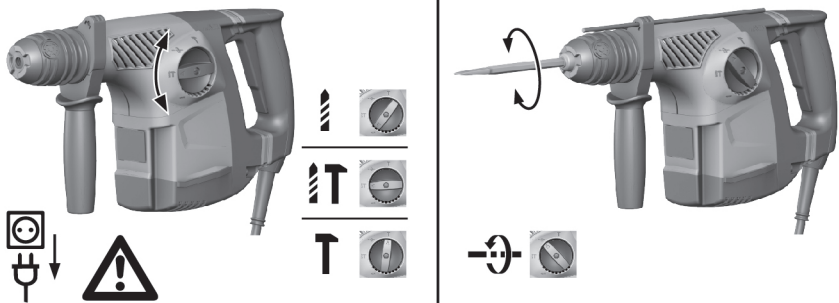
作業の全般について現場監督者の許可を得てください！

5.2.1 回転のみ

TE 30

TE 30-AVR

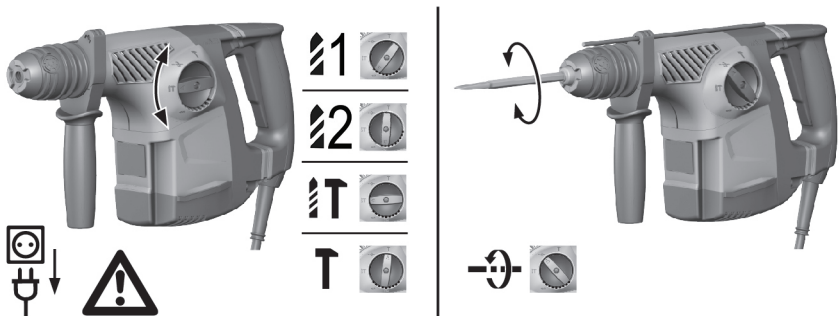
TE 30-C-AVR



- ▶ 機能切り替えスイッチを「回転のみ」の位置にします。

5.2.2 回転のみ (1速)

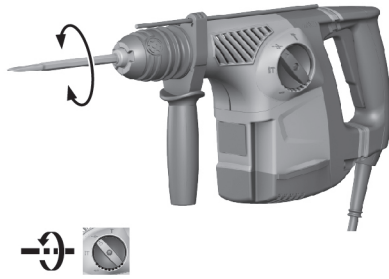
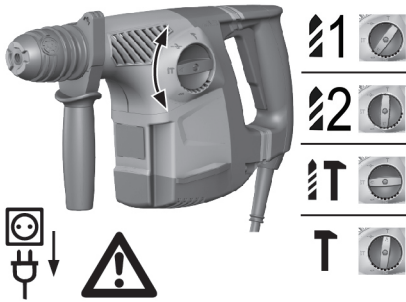
TE 30-M-AVR



- ▶ 機能切り替えスイッチを「回転のみ」の位置にします。

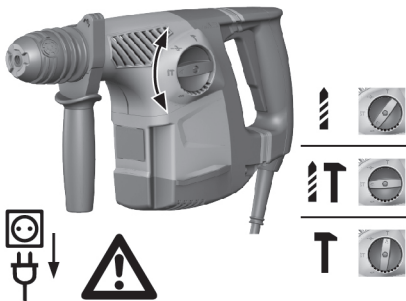
5.2.3 回転のみ (2速)

TE 30-M-AVR



- ▶ 機能切り替えスイッチを「回転のみ」2 の位置にします。

5.2.4 回転 + 打撃 (打撃穿孔)



- ▶ 機能切り替えスイッチを「回転 + 打撃」3 の位置にします。

5.2.5 チゼル角度調整

TE 30-C-AVR
TE 30-M-AVR



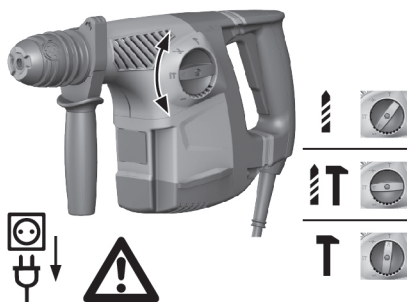
注意
負傷の危険！ ハツリ方向のコントロールの喪失。

- ▶ 「チゼル角度調整」位置で作業をしないでください。機能切り替えスイッチを「ハツリ作業」の位置にし、その位置にロックさせます。



注意事項

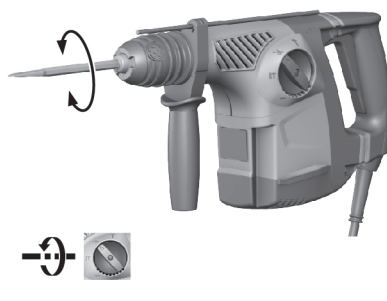
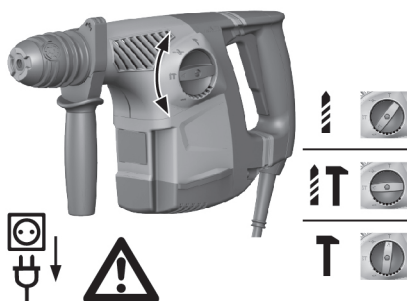
チゼルは 12 の異なる位置に (30° ステップで) 調整することができます。これによってコールドチゼルでもスケーリングチゼルでも、最適の角度で作業できます。



- ▶ 機能切り替えスイッチを「チゼル角度調整」⇄ の位置にします。

5.2.6 ハツリ作業

TE 30-C-AVR
TE 30-M-AVR



- ▶ 機能切り替えスイッチを「ハツリ作業」⊥ の位置にします。

5.2.7 正逆回転機能



注意事項

正回転 / 逆回転切り替えスイッチは必ず停止状態で操作してください。



- ▶ 正回転 / 逆回転切り替えスイッチを正回転あるいは逆回転位置にします。

6 手入れと保守



警告

感電による危険！ 電源プラグをコンセントに接続した状態で手入れや保守を行うと、重傷事故および火傷の危険があります。

- ▶ 手入れや保守作業の前に、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

手入れ

- 強固に付着した汚れは慎重に除去してください。
- 通気溝を乾いたブラシで入念に清掃してください。
- ハウジングは必ず軽く湿らせた布で清掃してください。シリコンを含んだ清掃用具はプラスチック部品をいためる可能性があるので使用しないでください。

保守



警告

感電による危険！ 電気部品の誤った修理は、重傷事故および火傷の原因となることがあります。

- ▶ 電気部品の修理を行うことができるのは、訓練された修理スペシャリストだけです。

- 目視確認可能なすべての部品について損傷の有無を、操作エレメントについては問題なく機能することを定期的に点検してください。
- 損傷および / または機能に問題のある場合は、電動工具を使用しないでください。直ちにHilti サービスセンターに修理を依頼してください。
- 手入れおよび保守作業の後は、すべての安全機構を取り付けて機能を点検してください。







7 搬送および保管

- 電動工具は先端工具を装着した状態で搬送しないでください。
- 電動工具は常に電源プラグを外して保管してください。
- 本体は、乾燥している場所に、子供や権限のない人が手を触れることのないようにして保管してください。
- 電動工具を長距離にわたって搬送したり長期にわたって保管した後は、使用前に損傷がないかチェックしてください。


8 故障時のヒント

この表に記載されていない、あるいはご自身で解消することのできない故障が発生した場合には、弊社営業担当またはHilti サービスセンターにご連絡ください。

8.1 故障かな？と思った時

故障	考えられる原因	解決策
本体が始動しない。	主電源が供給されていない	▶ 他の電動工具を接続して機能を点検する。
	カーボンブラシの摩耗。	▶ 修理スペシャリストに本体の点検を依頼し、必要な場合にはカーボンを交換する。
操作中に本体の電源がオフになる。	低い回転数での長時間にわたる穿孔。	▶ コントロールスイッチから指を放し、改めてコントロールスイッチを操作する。
打撃がない。	本体温度が低すぎる。	▶ ローターハンマードリルを母材に接触させて、アイドル回転させる。打撃機構が始動するまでこれを繰り返す。
	機能切り替えスイッチが「回転のみ」  に設定されている。	▶ 機能切り替えスイッチを「回転 + 打撃」  の位置にする。
コンビハンマードリルがフルパワーにならない。	延長コードの導体断面積が不十分。	▶ 十分な導体断面積を持つ延長コードを使用する。
	コントロールスイッチの握り込みが不十分。	▶ コントロールスイッチをストップ位置まで強く握り込む。
ドリルビットが回転しない。	機能切り替えスイッチがロックされていない、あるいは「ハツリ作業」  または「チゼル角度調整」  の位置にある。	▶ 機能切り替えスイッチを「回転のみ」  または「回転 + 打撃」  の位置にする。
ドリルビットのロックが外れない。	チャックが完全に引き戻されていない。	▶ チャックロックスリーブをストップ位置まで引き戻し、先端工具を取り外す。
ドリルビットが切削しない。	本体が逆回転にセットされている。	▶ 本体を正回転にする。

9 廃棄

 Hilti 製品の大部分の部品はリサイクル可能です。リサイクル前にそれぞれの部品は分別して回収されなければなりません。多くの国で Hilti は、古い電動工具をリサイクルのために回収しています。詳細については弊社営業担当または Hilti 代理店・販売店にお尋ねください。



- ▶ 本体を一般ゴミとして廃棄してはなりません。

10 RoHS (有害物質使用制限に関するガイドライン)

下記のリンクより、有害物質を記載した表を確認できます：qr.hilti.com/r4236 (TE 30)、qr.hilti.com/r1833752 (TE 30-AVR)、qr.hilti.com/r4235 (TE 30-C-AVR) および qr.hilti.com/r4253 (TE 30-M-AVR)。

本書の最終ページに RoHS 表にリンクした QR コードがあります。

11 メーカー保証

- ▶ 保証条件に関するご質問は、最寄りの Hilti 代理店・販売店までお問い合わせください。



Hilti Aktiengesellschaft
Feldkircherstraße 100
9494 Schaan | Liechtenstein

TE 30 (01)	[2008]
TE 30-AVR (01)	[2008]
TE 30-C-AVR (01)	[2008]
TE 30-M-AVR (01)	[2008]

2006/42/EG

EN ISO 12100

2011/65/EU

EN 60745-1

2014/30/EU

EN 60745-2-6

Schaan, 05/2015

Paolo Luccini

Head of BA Quality and
Process-Management
BA Electric Tools & Accessories

Tassilo Deinzer

Executive Vice President
BU Electric Tools & Accessories

TE 30



TE 30-AVR



TE 30-C-AVR



TE 30-M-AVR





Hilti Corporation

LI-9494 Schaan

Tel.: +423/234 21 11

Fax: +423/234 29 65

www.hilti.group

Hilti = registered trademark of Hilti Corp., Schaan



20171011